

東京五輪開催前から始まった日本サッカー協会代表強化の歴史

—キリンカップサッカーに着目して—

小池宏和

キーワード：代表強化，日本サッカー協会，キリンカップサッカー，冠大会

【研究の背景】

近年日本のサッカーの発展は目覚ましいものであり、ワールドカップに出場することはもはや当然のようになり、大会内での成績がより一層求められるようになった。しかし、日本代表は常に強豪国であったわけではなく、ワールドカップへの出場が夢に様に語られる時代があった。そんな過去から現在の日本代表に至る過程には選手たちの強化を支え続けた日本サッカー協会の努力があった。私は 16 年間サッカーに携わってきた身として自分がサッカーにかかわる以前の日本代表と日本サッカー協会の取り組みに強く興味を抱いた。

【研究の目的・意義】

本研究では日本サッカー協会の代表強化の中でも「日本サッカー冬の時代」と言われた 1970 年代始まり、現在に至るまで一貫して行われているキリンカップサッカーに着目した。協会がどのような背景のもとにこの大会を実施したのか、またこの大会はどのような変容を遂げ、行われ続けてきたのかを研究することで、日本サッカーの当時の状態や協会の考えか知ることを本研究の目的とした。

またキリンカップサッカーはまだ日本のサッカーが今ほどメジャーになる前にキリンという日本を代表する企業が協賛を行い開催された大会である。そのため、そういった背景を踏まえ、大会を考察することで現在資金難で競技力向上に悩むマイナースポーツへの一助になればと考え、これを本研

究の意義とした。

【先行研究の検討】

日本代表に関して網羅的に歴史をたどった文献は(後藤 2006)などに見られたが、一大会であるキリンカップの協会内での位置づけの変化等を詳しく追った研究は見つからなかった。

【研究の方法】

本研究では協会が一貫して発行している協会誌、記念誌、また大会開催後のサッカー雑誌をもとに代表強化の中でどのような位置づけで大会があり続けたのかを以下の時期区分で明らかにしていた。

①ローマ五輪予選敗退後からメキシコ五輪銅メダル獲得まで

②メキシコ五輪からジャパンカップ開催まで

③ジャパンカップ開催からフランスワールドカップ出場まで

本研究ではキリンカップ開催の大きな背景である 1970 年代の低迷期を生み出す大きな要因となった 1964 年東京五輪前から始まった初の大々的な代表強化から研究を進め、①でそこから一応の成果を見せたメキシコ五輪までを研究した。②ではメキシコ五輪での栄光から、ジャパンカップ開催の原因となった 1970 年代の低迷期、そしてその間に行われた協会改革を研究し、その中でどのような背景、意図をもって大会が開催されたのかを研究した。③では大会開催後、大会での結果や目下の目的であるワールドカップ予選での日本代表の結果に

基づいて、どのように大会の目的や捉えられ方が変化してきたのかを研究した。

【本論】

1. 日本蹴球協会による初の大々的選手強化

協会による海外遠征や強豪チーム招聘試合などの大々的な強化が始まったのは 1964 年東京五輪の大会前からである。当時の協会は慢性的に資金難であり、海外遠征もろくに行えないような状況であったが、開催国枠で出場の決まっている東京五輪前の日本代表の成績に危機感を感じた当時の協会は日本体育協会強化対策本部の支援の下、初の大々的な代表強化を行い、東京五輪でアルゼンチンを下すなどの結果を残す。このことで日本ではサッカーブームが興り、次の大会であるメキシコ五輪に大きな期待がかかっていた。協会はその期待に応えるべく、苦しい財務状況の中東京五輪メンバーとほとんど入れ替えずに集中的な強化を行った。その結果メキシコ五輪では銅メダルを獲得した。だがその代償ともいえるべく、一世代に偏りすぎた強化は後の低迷期を生み出した。

2. 1970 年代日本サッカーの低迷と長沼健の改革

低迷期を送る 70 年代に専務理事として様々な改革を行ったのが長沼健であった。長沼は協会の役割として「財政」「強化」「普及」の三つの柱を掲げた。長沼は財政が安定しなければ満足はいく強化、普及ができないとして、財政改革に取り組む。そして安定的な財政基盤を作り出すことに成功した協会は「強化」「普及」を目的として、国内の各都市で、当時参加していた国際大会では到底相手にできない強豪クラブを招待した大会を画策した。その結果生まれたのが国内初の国際大会であった「ジャパンカップ」であった。

3. キリンカップサッカーの在り方の変化

強化普及を目的として開催されたジャパンカップはその後キリンの協賛を得て、「ジャパンカップ」「ジャパンカップ・キリンワールドサッカー」「キリンカップサッカー」と名前を変え開催され続ける。そして大会の在り方として以下のような 4 つの変化をたどる。

①勝利を求めるのではなく、欧州のプロチームを肌で感じられる大会

②ただプロチームに善戦して満足するのではなく、勝つことを目標とする大会

③欧州や南米のナショナルチームにどれだけ良い戦いができるかを試す、ワールドカップ予選へのテストマッチとしての大会。強化だけでなく協会のワールドカップ招致に向けたアピールの場としての大会。

④ナショナルチームにも臆すことなく優勝することを目指し、目下の目標であるワールドカップ予選へのテストマッチとしての大会

上記のように大きくその意義や位置づけを変化させていく中でも一貫して日本中にハイレベルなサッカーを届ける普及の意味合いと、代表に貴重な国際経験を提供する強化の意味合いを備え続けていた。

【結果】

1964 年東京五輪前に始まった協会による代表強化は大きな変化を遂げてきた。その変化は当時の日本代表に状況に大きく依存しており、キリンカップの在り方や位置づけにも強く反映されている。しかし一貫して長沼が協会の目的として掲げた「財政」「普及」「強化」の中の「普及」「強化」という二つの役割を担い続けてきた大会であった。こういった一貫して日本代表を支え続けた大会が存在したことは 1970 年代からは考えられない現在の日本代表の躍進に大きく貢献したことは疑いようのない事実である。

(指導教員 秋元忍)